

令和3年度 宮古教育事務所「特別活動〔学級活動(1)〕学習指導案」様式・作成のポイント

学級活動(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

学級活動の内容(1)は、学級や学校での生活をよりよくするために議題を見だし、児童生徒が主体となって具体的に問題の解決方法を集団で話し合い、「合意形成」したことに協働して実践していく一連の活動を示している。指導案は、この特質を踏まえて作成することが重要です。

第○学年○組 学級活動指導案

Point ▶ 作成に当たっては以下の資料を参考にする。

- (1)『学習指導要領解説』(小、中特別活動編)
- (2)『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(特別活動)』
- (3)『みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動』〈文科省国立教育政策研究所〉

令和 年 月 日 () 校時
年 組 名

指導者:

1 議題 「 」

学級活動(1) 例:ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

Point ▶ 【議題】→「○○○○○をしよう」などと示します。

学級や学校における生活上の諸問題から見いだされた課題を基に、児童生徒によって提案されたことについて、教師の適切な指導の下に、事前、本時、事後の一連の活動を指して「議題」とする。

2 議題について

(1) 児童(生徒)の実態

- ・学級活動(1)は「議題」
- ・学級活動(2)(3)は「題材」

Point ▶ 児童(生徒)の学級生活における実態や学級活動における実態(児童生徒が主体となり「学級や学校の生活づくり」について問題を見だし、話し合い、計画・実践に関する普段の現状)を記述する。また、アンケートを活用した意識調査や学校生活の観察からの様子を具体的に捉える。

※児童(生徒)の実態を、発達段階に応じた「評価規準」と照らし合わせる事により、話し合い活動における課題や目指す方向性を具体的に捉えることができる。

(2) 議題選定の理由

Point ▶ 【×議題設定 → ○議題選定】

議題が選定された背景やこの議題に対し学級全体が取り組むことで、どのような資質・能力が育まれ学級や学校生活がどのように向上していくことが期待できるかについて、教師の願いや「指導観」などを記述する。
※特別活動で育てる資質・能力の3つの重要な視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」との関連を意識しながら記述する。

3 第○学年及び第○学年の学級活動(1)の評価規準 【中学校:学級活動(1)の評価規準】

【例】よりよい生活を築くための知識・技能

【例】集団や社会の形成者としての思考・判断・表現

【例】主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度

Point ▶ ※上記の【例】で示した観点は、特別活動における「評価の観点及びその趣旨」をもとにした例。

※ 学習指導要領に準じて、各学校で定めた「評価の観点」及び「評価規準」を記載する。各学校で定めていないときには、『学習指導要領解説(小、中特別活動編)』や『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(特別活動)』第2編の例示を参照すること。

4 事前の活動 <記入例>

- ・学級活動(1)は「事前の活動」
- ・学級活動(2)(3)は「事前の指導」

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿【観点】<評価方法>
○月○日 昼休み	・提案ポスの議題案を確認し、選定する【計画委員会】	・議題選びの視点を念頭において選定することを指導する。	◎ ○○への見通しを持ち、意欲的に取り組もうとしている。 【主体的態度】<観察> ◎議題内容を捉えて自分の意見を書いている。 【思考・判断・表現】
○月○日 帰りの会	・議題を決定する【学級全員】	・計画委員会で選定した議題案をもとに、学級全員で決定する。	
○月○日 昼休み	・活動計画を作成(提案理由、話し合う事、進行等)【計画委員会】	・学級全体の共同の問題になるように、提案理由を深めるようにする。	
○月○日 帰りの会	・自分の意見を考えるように伝える【学級全員】	【計画委員会】:小学校では「司会グループ」と呼んだり、中学校では「プログラム委員会」や「学級活動委員」と呼んだりする。輪番制が望ましいが、中学校ではその限りではない。実態や発達段階に応じて臨機応変に対応すること。 ※ 計画委員会等の構成は、司会・記録担当のメンバーと教師等	

5 学校で重点的に育成を目指す「資質・能力」と本学級活動での学びの姿との関連

例 ①自ら考える力	議題内容を実態から捉えて、自分の考えを整理している姿	事前の活動、 展開、事後の活動
例 ②伝える力	自分で考えたことを、相手に工夫して伝える姿	展開 事後の活動
例 ③練り合い創る力	友達の考えを取り入れたり資料を多面的に読み取り、思考している姿	事前の活動、 展開、事後の活動

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

Point 議題設定理由を踏まえ、本時の活動の意図を具体的に記述する。
【例】 ○○○○をするために、学級の実態や友達の思いを察しながら、△△△△を考えることができるようにする。

(2) 展開 【記入例】

	話合いの順序	指導上の留意点(教師の手立て)	◎目指す児童(生徒)の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 00分	1 はじめの言葉 2 計画委員会の自己紹介 3 議題の確認 4 提案理由やめあての確認 5 決まっていることの確認 6 教師の話	・計画委員がスムーズに進行できるように学級の雰囲気を整える ・提案理由やめあての可視化の工夫 めあて 「例: ○○○……を考えよう」 ・決まっている日時や場所等があれば確認 ・教師の話は手短に、提案理由から学級全体の共同の問題(議題)として捉えさせ展開へ導く	
展開 00分	7. 話合い 話し合うことを記述する(発達の段階や議題の内容によって2本~3本となる。) (1)話し合うこと① 【例】 議題に挙げた「○○○」の内容は、何をするか(12分) (2)話し合うこと② 【例】 議題と提案理由に迫るため、○○○についてより工夫するためにはどうしたらよいか(15分) (3)話し合うこと③ 【例】 実践していくために、「どのような役割や振り返りの方法等、具体的に必要となるもの」(8分)	・司会が進行に困った時は方向性を示唆し、児童(生徒)の合意形成を方向付けるような助言はしない。 ・自治的活動の範囲を超えそうな場合は、適切に助言する。 Point ・話し合いが混乱したときの助言 ・話し合いを深める助言 ・必要に応じて、自分の意見に固執せず、納得したうえで考えを変えるなど、折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さについて助言する。 Point 学級生活の改善を図るために「折り合いを付ける力」を育成し、合意形成に向けた手立てについて助言。	「充分満足できる活動の状況」を的確に見取るため、具体的な児童生徒の姿を具体的に示します。 ◎互いの意見や可能性を生かし合った話し合い活動の仕方を身につけている。【知識・技能】〈観察・発言〉 ◎友達の意見を認めながら合意形成に向け(個人として)取り組んでいる。【思考・判断・表現】〈ワークシート、観察〉
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>重要 Point 【合意形成を図る】 異なる意見や考えをもとに、様々な解決の方法を模索したり、折り合いを付けたりすることで、最終的には「自分もよくてみんなもよい」というように集団としての意見をまとめること。 [学級活動(1)における学習過程の「解決方法の決定」に明記]</p> <p>Point 【合意形成を図る活動の留意点(主に中学校)】 ○課題に対して、一人一人が自分なりの意見や意思をもった上で、合意形成に向けた話し合い臨むようにすること。 ○合意形成に基づき実践するに当たって、自分自身に何ができるか、何をすべきかということを主体的に考えて、意思をもつこと。</p> </div>		
終末 00分	8 決まったことの発表 9 話し合いの振り返り 10 先生の話 11 おわりの言葉	・よかった点や課題について自己評価し、友達の考えについても相互評価できるように助言する。 終末の助言では、①合意形成したことへの価値付けや個人や集団への賞賛、②今後の課題、③計画委員会へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等について簡潔に述べる。また、前回の話し合いと比べての変容について伝え、集団としての高まりを賞賛する。	

7 事後の活動 〈記入例〉

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○月○日 昼休み等	・決まったことを学級活動コーナーに掲示する。 【計画委員会】	・議題選びの視点を念頭において選定することを指導する。	◎合意形成したことをもとに、議題設定理由を意識しながら友達と協力して実践している。 【思考・判断・表現】 〈振り返りカード、観察〉 ◎成果と課題を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしている。【主体的態度】 〈振り返りカード、観察〉
○月○日 ～ ○月○日	・計画を立てて、協力して取り組む ・帰りの会などで経過報告等、情報を共有し合う。	・協力したり工夫したりしている状況を賞賛する	
○月○日 取組の当日	・取組の成果が発揮できるように、協力して○○○に取り組む 【学級全員】	・協力したり工夫したりしている状況を賞賛する	
○月○日	・一連の活動を振り返る (例:「議題:○○○しよう。に関わる集会や行事、定期テスト等の後」) 【学級全員】	・自分の態度を振り返るとともにめあてに基づいた振り返りうえお行い、自分の役割を果たすことや友達のよかったところについても認められるように助言する。	

8 板書計画 【実際に板書した写真を添付してもよい。】



参考事例 : 『みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動』〈文科省国立教育政策研究所〉より

9 児童(生徒)の活動計画

※ 計画委員会(学級活動委員会)が作成した活動計画(児童生徒の手書き可)を添付するよう
にすること。

【児童の活動計画参考事例】 (8の板書計画との整合性はありません。)

●(2) 児童の活動計画			
第13回 4年〇組 学級会 活動計画 〇〇年〇月〇〇日(木)第5校時			
議題	4年〇組がるた大会をしよう		
提案理由 提案者 〇〇さん	今まで4年〇組では、いろいろな集会や行事を通して、けんがや失敗をしながらもみんなで協力して乗り越えてきました。今度は4年〇組だけのオリジナルがるたを作ってみんなで楽しむことで、友達やクラスの新たなよさも発見でき、クラスのきずなはさらに深まると用ってていましました。		
司会グループ	司会 〇〇さん	黒板記録 〇〇さん	ノート記録 〇〇さん
	司会 〇〇さん	黒板記録 〇〇さん	
話し合いの めあて	友達やクラスのよさを発見できるがるた大会を計画しよう		
決まってい ること	<ul style="list-style-type: none"> 〇月〇〇日(〇)〇時〇〇分に実施する。 四つ切り画用紙で作る 50音の付ごとに意図分けてみんなでセット作る 全員参加で実施する 		
話し合いの順序	気を付けること		準備
1 はじめの言葉	・大きな声ではっきりと言う。(司会)		・説明の 紙
2 計画委員のしょうかい	・一人ずつ役わりと名前、めあてをはっきり紹介する。		
3 議題のかくにん	・大きな声ではっきり言う。(司会)		・学級会 ノート
4 提案理由のかくにん	・プレゼンテーションソフトを使い、電子黒板で分かりやすく示しながら説明する。(提案者)		
5 決まっていることのかくにん			
6 話し合いのめあてのかくにん	・司会が言った時、全員で声に出して言う。		
7 話し合い 話し合うこと① 「がるたに書く内容」 (12分間)	<ul style="list-style-type: none"> 最後に短ざくを整理してほっておき、「くらべ合う」から話し合うようにする。 出された意見に付け足しがあれば先にしてもらう。 		
話し合うこと② 「友達のことをもつとよく知るための工夫」(15分間)	<ul style="list-style-type: none"> てい実理由にそったがるたの内容はどれかを考えてもらう。 今までの学級集会活動を用い出しながら、どんな工夫ができるか、どんな傷が必要かを考えてもらう。 		
話し合うこと③ 「必要な傷」 (8分間)	<ul style="list-style-type: none"> 工夫はいくつあってもよいが、自分たちにできるかどうかをみんなに考えてもらう。 		
8 決まったことの発表	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすくまとめて発表する。(ノート記録) 		
9 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 時間があったら2、3人に発表してもらう。 		
10 先生の話			
11 おわりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> 会に向けて元気よく言う。(司会) 		

参考事例 : 『みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動』〈文科省国立教育政策研究所〉より